

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和5年5月19日

埼玉県知事 殿



提出者

住所 東京都新宿区西落合2-9-16

氏名 みどり化学株式会社

代表取締役 堀江 晴夫

電話番号 03-3980-8808

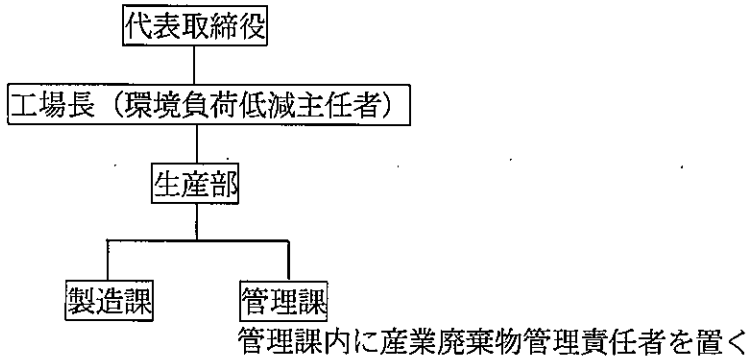
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	みどり化学株式会社 みどりが丘工場
事業場の所在地	埼玉県秩父市みどりが丘4-3
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	大分類：製造業 中分類：化学工業
② 事業の規模	約15.0億円
③ 従業員数	51名
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥：凝集沈殿・脱水、セメント固化もしくは焼却処理（委託処理） 廃油：焼却処理（委託処理） 廃酸：焼却処理（委託処理） 廃アルカリ：焼却、熱分解もしくは中和処理（委託処理） 廃プラスチック類：破碎もしくは焼却・融解・再資源化処理（委託処理） 木くず：破碎処理（委託処理） ガラス・陶磁器くず：焼却処理（委託処理） 蛍光灯（水銀使用製品産業廃棄物）：水銀加熱回収（委託処理）

(日本産業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度 (令和4年度) 実績】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 委託処理する廃棄物と自己処理可能な排水を分け、自社の排水処理設備を活用する。		
② 計画	【目標】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 再生利用や資源化が可能なものを業者選定し、委託処理を行う。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 製造工程にて排出される廃油、廃酸、廃アルカリ、汚泥は定められた容器に詰め、表示を行い区別する。廃プラスチック類、ガラス・陶磁器くず (容器に入れて表示を行い保管)、木くずはそれぞれ専用の置き場を定め、分別を行っている。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 種類は現状と変わらないため、今後も現状の分別を継続する。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
② 計画	【目標】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
② 計画	【目標】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
② 計画	【目標】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和4年度）実績】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
(これまでに実施した取組) 再生利用可能な業者や優良認定業者への委託処理を優先する。			

② 計画	【目標】 別紙の通り		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 再生利用可能な業者や優良認定業者への処理の委託を進めていく。		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

令和4年度実績 (単位：t)

産業廃棄物の種類	排出量	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	全処理委託量	優良認定処理業者への処理委託量	再生利用業者への処理委託量	認定熱回収業者への処理委託量	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
汚泥	65.55	0	0	0	0	65.55	65.55	0	0.05	0
廃油	16.99	0	0	0	0	16.99	16.99	0	0	0
廃酸	12.85	0	0	0	0	12.85	12.85	0	0	0
廃アルカリ	1285.99	0	0	0	0	1285.99	1285.99	0	0	0
廃プラスチック類	16.53	0	0	0	0	16.53	0	12.63	0	0
木くず	3.06	0	0	0	0	3.06	0	0	0	0
ガラス・陶磁器くず	0.7	0	0	0	0	0.7	0.7	0	0	0
水銀使用製品産業廃棄物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1401.67	0	0	0	0	1401.67	1382.08	12.63	0.05	0

令和5年度目標 (単位：t)

産業廃棄物の種類	排出量	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	全処理委託量	優良認定処理業者への処理委託量	再生利用業者への処理委託量	認定熱回収業者への処理委託量	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量
汚泥	60	0	0	0	0	60	60	0	0	0
廃油	20	0	0	0	0	20	20	0	0	0
廃酸	10	0	0	0	0	10	10	0	0	0
廃アルカリ	1200	0	0	0	0	1200	1200	0	0	0
廃プラスチック類	15	0	0	0	0	15	0	12	0	0
木くず	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0
ガラス・陶磁器くず	1	0	0	0	0	1	1	0	0	0
水銀使用製品産業廃棄物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1308	0	0	0	0	1308	1291	12	0	0